

設立10周年にあたって



全国読売防犯協力会
副会長
後藤 幸男

大阪本社管内（近畿、中国、四国）を担当する副会長の後藤でございます。

「十年一昔」という諺ことわざがありますが、現代では、「三年一昔」と言えるくらい、時代の進むスピードが日々

広報活動で犯罪を抑止



全国読売防犯協力会
副会長
齊藤 文一

私は西部本社管内の山口県と九州地区を担当する齊藤と申します。

私たちの活動は昨今、「安全見守り活動」の要請が増える傾向にあり、山口県、福岡県では、お年寄

に速くなっているように思います。一つの例ですが、携帯電話からスマートフォンに代わるのに、2、3年のはかかるだろうと言われていたのが、あつという間にスマートフォン使用者が多数になりました。

また一方で、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加している現実もあります。急激に進化する高度情報化社会の華やかさの陰で、高齢者が携帯電話やスマートフォンを使った振り込め詐欺犯人からお金を騙し取られるという痛ましい被害が後を絶たず、その対策は急務といえ

り、子ども、女性の安全を見守る協定を締結しました。また、2013年には、福岡県はもとより山口県、熊本県でも県や市などの自治体や社会福祉協議会との間で、見守り協定を締結しました。このようにに私たちを取り巻く社会の変化は、弊会の活動に広がりを持たせるようになっていきます。

YCとそこに働くスタッフらは、毎日配達業務や集金業務のため販売エリア内を駆け巡っています。それゆえ、耳目に飛び込む景色の異常や音の違いに、いち早く気づくことができます。その結果、高

るでしょう。

大阪本社管内の読売防犯協力会ではこの10年、「YCは、新聞の配達・集金を通じて地域の見守り活動を推進します」を合言葉に、このような社会情勢に応じた犯罪防止活動や高齢者の見守り活動などに取り組んでまいりました。

弊会では、これからも地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯取り組みたいので、相変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

高齢者単独世帯における「孤立死」「孤独死」を防ぐことができたり、不審者の発見などでも、地域の皆様のお役に立てる時があるので

す。私たちは引き続き、防犯活動を今後も行つてまいります。どうかお力添え願えれば幸いに存じます。